

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4571700717		
法人名	社会福祉法人あさぎり福祉会		
事業所名	グループホーム朝霧2号館		
所在地	宮崎県都城市高城町大井手1049番地 (電話) 0986-53-2505		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年10月16日	評価確定日	平成21年11月27日

## 【情報提供票より】 (平成21年9月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤16人, 非常勤1人, 常勤換算7.3人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨木造	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

### (4) 利用者の概要(平成21年9月20日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	1	要介護2	5
要介護3	7	要介護4	4
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 83歳	最低 76歳	最高 93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉見クリニック
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田畑に囲まれ穏やかな環境の中にデイサービスとグループホームがある。ホームの周りには四季の花が植えられ、地域のボランティアの協力もあり、行き届いた手入れがなされている。ベランダから菜園が眺めることができ、利用者は収穫を楽しみにのどかな日々を過している。利用者はデイサービスにボランティアの踊りを見に行ったり、機能訓練に行き交流もしている。管理者や職員は、利用者が自宅に居る時を想定し細かに気を配り、時には外に連れ出し、墓参りや買い物などで気分転換を図っている。利用者本位の生活が出来るよう寄り添うケアが行われており、安心して落ち着ける場所として過ごせるホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題となった災害対策は、昼夜を問わず職員や利用者が避難の方法を身につけるため、さまざまな時間帯や災害を想定した訓練を試みている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	職員個々が評価を行うことで、新しい発見や気づきがあった。さらに職員全体で評価を行うことで、日ごろ気づかなかった点を把握し、改善に向けた取組みをしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回、家族代表、民生委員、市の担当者、包括支援センター等の出席で会議を開催し、事業報告と進捗状況、介護相談員の訪問報告、外部評価等の報告と積極的な意見交換が行われ、そこでの意見をサービス向上に生かしている。また、権利擁護に関する質問があり、地域包括支援センター主催の権利擁護に関する研修会に多くの人が参加している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や、行事、家族来訪時に話を聞いたり、意見等を言いやすい雰囲気作りに努めている。また、毎月の家族会便りで誕生会や生け花をしている様子などの写真にコメントを入れて、近況報告や今後の行事予定などを報告するとともに、お小遣帳のコピーも同封している。状態に変化がある時は、そのつど電話等でこまめに連絡している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭りや敬老会に、利用者と職員と一緒に踊りなどで参加している。また、地域の文化祭に利用者の作品を出品したり、地域の人から野菜の差し入れや、民生委員にホームの事業にボランティアとして協力してもらっている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の「地域との交流」を基本に利用者・家族との信頼関係を大切にし、利用者本位の一人ひとりの個性を大事にその人らしく生活できるようホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について職員研修や介護職員会議等で日常的に話し合い、日々のケアに笑顔で接することができるよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや敬老会に利用者と職員が一緒に踊りなどで参加している。また、文化祭に利用者の作品を出品したり、地域の人から野菜の差し入れや、民生委員にボランティアとして環境整備等で協力してもらっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員個々が評価を行うことで、新しい発見や気づきがあった。さらに職員全体で評価を行うことで、日ごろ気づかなかった点を把握し、改善に向けた取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族代表、民生委員、市の担当者、地域包括支援センター等の出席で2か月に1回開催し、事業報告、介護相談員の訪問報告、外部評価等の報告と積極的な意見交換が行われ、そこでの意見をサービス向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月2回の介護相談員訪問や、包括支援センター主催の権利擁護に関する研修会に参加する外、地域の福祉関係者の交流会等で意見交換をしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の家族会便りで、誕生会や生け花をしている利用者の様子や職員異動、行事予定などを報告している。小遣帳のコピーも同封し、残高を確認しサインしてもらっている。利用者の状態に変化がある時はそのつど、電話等でこまめに連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行うとともに、行事や家族来訪時に話しを聞いたり、言いやすい雰囲気作りに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の際は、利用者が理解できるように説明し、新任者が慣れるまで他の職員と一緒にケアを行うなど、利用者への配慮を十分に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で段階に応じた研修計画が生まれ、管理者や職員は県内・外の研修に参加の機会がある。法人内の毎月の会議の中で、研修参加者による復命報告があり、さらに回覧等で共有している。また、資格取得に関しては、優先的に勤務ローテーションの調整も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会を通じて、1か月ごとに管理者と職員が交代でホームを巡回し、勉強会や見学、情報交換等の交流を行い、サービスの質を向上させていく取り組みをするようになった。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に職員が訪問したり、見学に来てもらい利用者と一緒にお茶を飲んだり、ちまきを作るなど、ゆっくり過ごしてもらうとともに、利用者主体の「さくら会」で受け入れについて話し合い、そこでの意見を参考に徐々になじめるよう、家族と相談しながら工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの「さのぼり」では、利用者の要望でペットボトルを利用して稲を育て、収穫したお米でおにぎりを作って食べたり、郷土料理のあくまき作りや梅漬け、また、方言や歌を教えてもらうなど、利用者から学ぶことも多く喜怒哀楽をともにしている様子がうかがえた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりをケアする中で聞いたり、気づいたりしたこと、利用者主体の「さくら会」開催の時に、本人の意向や希望を把握し利用者本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護記録はケアプランに沿って記録され、毎月の職員会議において全員で話し合いをしている。また、カンファレンスも施設長、事務長、支配人、給食担当等、他の職員も積極的に参加し、本人や家族の意向に沿った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画に沿った記録と会議での話し合いから毎月評価し、状態変化時や、期間設定に応じ3か月ごとに計画を見直し、現状に即した計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、病院受診や墓参りの支援を行っている。また、デイサービスや特別養護老人ホームとの交流を行い、合同で夏祭りや、物故者法要、文化祭等を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの掛かりつけ医での受診を支援し、家族の希望があれば、歯科医や専門医の受診なども支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合については、入居時に家族や本人と話し合っている。状態変化時は、家族と主治医に相談しながら今後の方針を決めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「さくら会」で行事についての意見を聞くなど日ごろから利用者を尊重しており、職員が利用者に接する態度からも優しさが感じられた。また、個人情報の取り扱いについては、重要事項説明書等で説明し、本人や家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	墨字で「わたしらしく」と掲示しており、職員は利用者個々のペースを把握し、利用者とのコミュニケーションを大切にしている。希望に沿って朝食の時間も自由である。洗濯物たたみや洗面台の掃除など手伝ってもらったり、その人らしい暮らしができるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日は「おまかせメニュー」で利用者の好みの食材を一緒に買いに行き調理している。職員は、利用者にさりげなく声かけや介助しながら食事をし、下膳やお盆ふき、テーブルふき、食器洗い等を一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回となっているが、利用者一人ひとりの健康状態を確認しながら、ゆったりと入浴してもらい、希望があれば毎日でも入浴できるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭の花を生けたり、書道や縫い物、ドライブや外食を楽しみ、洗濯物たたみやテーブル拭き、食器洗い、掃除等一人ひとりの力量に合わせ、役割や晩酌など楽しみ事の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が所用で外出する際に利用者を伴ったり、日曜日の食材の買い物や外食、ドライブ、散歩、買い物、墓参り等をその日の希望に沿った支援により、外出の機会を多く作るようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵はかけていない。職員は利用者の所在を常に把握するようにして、外に出る気配が感じられる時は、さりげなく付き添うなどの対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震を想定した防災訓練を月1回、時間を変えながら行い、年2回は地区の消防、警察、民生委員の協力の下で行っている。特に台風接近時には、台風対策委員会を開催し、水、食料の確保、停電等の対策を検討している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎週日曜日を除き、栄養士の献立による食事となっている。栄養やカロリーが考慮されており、一人ひとりの摂取状態をチェック表で把握している。食事形態も配慮し、必要な時には補助食品や、食べられる物を提供するなどの対応をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間は季節の花々や手作りの作品が飾られ、明るく風通しも眺めも良く開放感がある。壁には写真や文化祭に出品する利用者の作品が飾られており、利用者がうれしそうに説明してくれた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や調度品、テレビ、寝具が置かれ、壁には写真と和紙の来訪者名簿がある。職員の行き届いた心配りで、落ち着いて安心して過ごせるように工夫されている。		

※  は、重点項目。